

# 里地・里山 だより

## 活動報告号 2026 春

発行  
里山フォーラム in 麻生  
川崎市麻生区万福寺 1-5-2  
麻生市民館気付け

- もくじ P1 “2026 里山フォーラム in 麻生” 第1部
- P2 P3 “2026 里山フォーラム in 麻生” 第2部ほか
- P4 P5 あさお里山こどもクラブ
- P6 P7 里地・里山カフェ塾（からむし講座、万福寺人参）
- P8 第20回わたしのまちのホッとする風景写真展



麻生の自然の豊かさを未来へつなごうと、みどりを守る、環境を守る、暮らしの歴史を継承する団体グループが一堂に会し“2026 里山フォーラム in 麻生（第25回）”を開催しました。東日本大会で金賞受賞の金程中学校吹奏楽部の力強い演奏に励まされるように第1部が始まりました。



令和7年度 麻生区地域課題対応事業-麻生里地・里山保全推進事業

Colors for You

### 第25回 2026 里山フォーラム in 麻生

3月7日（土曜） 麻生市民館 大会議室

- 9:30 ポスターセッションと交流 総合司会 石井よし子
- 10:00 第1部
- 柿生の山伏 高橋昂希 先導
  - オープニング 金程中学校吹奏楽部 演奏
  - 挨拶 里山フォーラム in 麻生代表 堂前雅史 麻生区役所区長 東哲也
  - 子どもたちの発表「私たちが地域での体験を通して学んでいること」
    - \* 虹ヶ丘小学校「早野の森🌿新発見」
    - \* 岡上小学校「イツ岡上ワールド」
    - \* 東柿生小学校「里山から考える、私の自慢のふるさと」
    - \* 柿生小学校「柿生の里で保全活動」
- 11:20 ■ お楽しみワークショップ
- 昆虫や動物を作ってみよう（立体切り絵アーティスト 大菌一樹）
  - ムクロジ（無患子）で遊ぼう、作ろう！（柿生の里クラブ）

小学生が身近な自然や人と関わって学んだことをしっかりとすてきに発表しました。

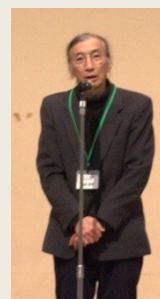
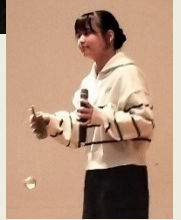
### 虹ヶ丘小 6年



レシビ（材料と作り方）

【材料】  
・ 餅 200g  
・ 豚バラ肉 150g

【作り方】  
① 餅を5センチのちよう切りにする、豚肉は7cmの長さに切る  
② フライパンに油を入れて、中火で熱し、豚肉の色が変わるまで炒める



堂前代表の挨拶：麻生区は自然に恵まれそこに個性的な様々な活動があるのは未来へ向けて生きものと共生する都市、災害に強い都市を築く上で宝となる。孤立しないで人々の交流があることでもみどりが繋がる。自然は長い、未来の世代がどんなものに心ときめくのか楽しみである。



- 発表する内容
1. わたたちが大切にしている「丸山」
    - ・ 丸山の歴史
    - ・ 場所
  2. わたしたちと「丸山」
    - ・ たけのこ掘り
    - ・ 丸山タイム
    - ・ 下草刈り
    - ・ 6年生総合
  3. 未来へバトンをつなぐ

### 岡上小 6年



東柿生小 6年 教科横断の学びを発表



東麻生区長の挨拶：一堂に会している多くの団体がつながりを作り、お互いの内容を知って頂く場である。次世代が自然に触れあい学び発表する機会がかけがえがないこと。麻生の自然は先人から引き継いだ貴重な財産。活動を通して未来へ継いで行かれることを期待している。

### 柿生小 5年

#### 楽しく竹消費





11:45 頃 (昼食休憩)

ポスターセッション ブース展示見学

12:45 第2部

■ 第20回 わたしのまちのホッとする風景写真展 今編、昔編 表彰式

● 挨拶 麻生市民館館長 相澤悟

環境局総務部企画課 内田洋平

建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課 坂祥士郎

13:10 ■ 基調講演 「ネイチャーポジティブな社会へ」

堂前雅史 和光大学現代人間学部 教授

■ 展示団体・施設によるトークリレー (各団体・施設 3分)

「つなぎあう未来へ!」

◆ 質疑応答

◎ 麻生の地元農産物紹介 お野菜当選番号発表

15:10 閉会

みんなでお片付け

第2部は写真展の表彰から始まりまして。P8に入賞写真を掲載。ご覧ください。



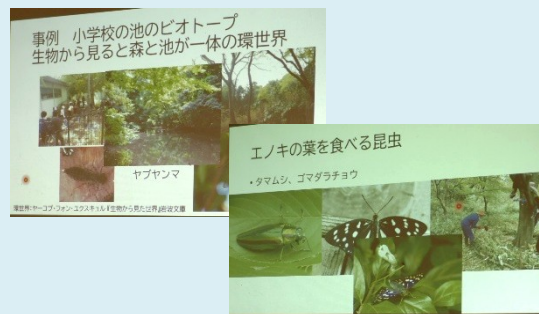
相澤館長は「身近な自然に多世代が親しむことが出来るのは学校教育でも社会教育でも大変意義があること」  
内田課長は「発表を聞いて川崎の未来は明るいと感じた。市は自然共生サイトの拡大を目指している。協力を」  
坂課長は「若い人に緑に関心を持ってもらうにはを考えている。緑の基本計画改訂にぜひ関心と意見を寄せて」とそれぞれのお立場からご挨拶されました。

### 基調講演

和光大学現代人間学部教授 堂前雅史

### ネイチャーポジティブな社会へ 「緑の隣人」とのお付き合い

はじめにネイチャーポジティブの概要、そして小学校でのヤブヤンマや緑地のエノキとゴマダラチョウ、庭やベランダの雑木林の役割など街全体がビオトープと捉えられることから、隣の持ち場の方と情報共有していくと、麻生区の多様な緑地、市民の多様な活動が繋がって、生物多様性をつくっていくのではないかと、またいろいろな認証制度も利用するなど世界の生物多様性とも繋がって行こうと話されました。



トークリレー 『2026 里山フォーラム in 麻生資料集 25』に各活動内容の詳細が記されています。



はるひ野里山学校



水辺のある里山を守る会



麻生多摩美の森の会



高石みどりの会



早野聖地公園里山ボランティア



森もりクラブ



まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ・柿生の里クラブ



花と市民参加の会



かわさきかえるプロジェクト



麻生区クールアース推進委員会



和光大学地域連携研究センター



NPO かわさき自然と共生の会



和光大学・かわ道楽



麻生ヤマユリ植栽普及会



万福寺人参友の会

力を合わせるスタッフ 〈受付の様子〉



〈終始見守る山伏〉



〈野菜担当〉



区役所事前ポスター展示～市民館大会議室のブース展示 一部を掲載



児童生徒用  
地場産ランチ  
ヘルスマイトの  
皆さん調理中



〔参加団体・施設一覧表(資料集参加を含む)〕

＊はるひ野里山学校 ＊水辺のある里山を守る会 ＊小沢城址里山の会 ＊黒川里楽塾 ＊授産学園 ＊多摩美みどりの会 ＊麻生多摩美の森の会 ＊高石みどりの会 ＊はぐるま稗原農園 ＊麻生プレーパークを創る会 ＊ふらっと新百合ヶ丘 ＊あさお生きごみ隊 ＊森もりクラブ ＊柿生の里クラブ ＊まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ ＊虹ヶ丘おやじの会 ＊花と市民参加の会”コスモス” ＊吹込クローバーの会 ＊があでん・ららら ＊早野聖地公園里山ボランティア ＊麻生市民館岡上分館 ＊岡上郷土誌会 ＊和光大学・かわ道楽 ＊NPO かわさき自然と共生の会 ＊和光大学地域連携研究センター ＊麻生区クールアース推進委員会 ＊麻生ヤマユリ植栽普及会 ＊かわさきかえるプロジェクト ＊ ＊万福寺人參友の会 ＊かわさき昔話を語ろう会 ＊麻生区地域教育会議 ＊かながわトラストみどり財団 ＊川崎市環境局総務部企画課 ＊川崎市建設緑政局緑政部 ＊ヘルスマイト

〔2026 フォーラムで力を合わせたボランティア スタッフ・幹事〕

角南ゆり絵, 植田聡子, 内海陽子, 豊川真奈, 杉山茂一, 石井信, 難倉正人, 矢野敬二, 高橋靖, 檜物末子, 横田由季子, 山口幸紀, 小田桐浩, 浜田富美恵, 高部智明, 高部和久, 中島和夫, 七久保文男, 宮川純名, 江藤朔実, 小柳遥歌, 窪田迅郎, 宮河悦子, 田中肇, 岡本剛介, 堂前雅史, 高部由美子, 石井よし子

**感謝** 里山フォーラムの講座やイベントへの参加者の皆様、講師を務めてくれた先生方、伴走してくれた市民館職員の皆様、各小学校、金程中学校、団体や施設の皆様、力を合わせてくれたスタッフ、幹事に深く御礼申し上げます。

# あさお 里山子どもクラブ

ふるさと麻生の自然体験プログラム 見て 感じて 遊ぼう!

10月19日

つなぐよいのち  
昆虫の知恵? 植物の知恵!

講師 高柳芳恵  
(ナチュラリスト・絵本作家)

会場 麻生市民館料理室

11月2日

早野の自然に出会う  
木や竹を使ってみよう

講師 早野聖地公園里山  
ボランティアの皆さん

会場 早野聖地公園

11月16日

身近な植物を知ろう  
何がみつかるかな? ワクワク

講師 山田 晋  
(東京農業大学農学部教授)

会場 おつし山一柿生の里

12月7日

柿生の里の収穫祭  
茶の里山の準備 &  
遊ぼう! など楽しもう

講師 柿生の里クラブの皆さん

会場 柿生の里

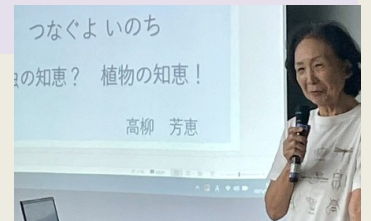
酷暑を超えて秋口となり、**あさお里山子どもクラブ**が始まります。子どもも保護者も共に学ぶ全4回の講座です。

## 第1回 10月19日(日曜)

### 「つなぐよいのち 昆虫の知恵? 植物の知恵!」

**\*講師 高柳芳恵(ナチュラリスト・絵本作家・サイエンスライター)**  
**\*会場 麻生市民館 料理室**

高柳先生のように「**どうやって生きて来たの? どうして生きてるの?**」と虫や植物に問いかけながら、見て・触って・作業して、自然はすごーいと気づき、感動する幸せ時間でした。



地球上で最初に生まれたのが植物、そして昆虫。5億年も前から、どうして? どのようにして? いのちをつないで来たのか? と実際にセミの抜け殻の口の観察をし、植物のそれぞれの移動方法を実験しながら体験学習しました。



**昆虫**は食して生きています。生きるために大切な口の姿をセミのほかにかブトムシ、クワガタ、シギゾウムシ、チョウなどからも学習しました。虫たちは必要なものだけ丁寧に作っていることや、それぞれの生き方で、それぞれの形ができて来た進化の様子も分かりました。**植物**に一番大切なことは、花を咲かせて種を作って自分の子孫を増やすことですが、植物は自分で動けないので、いろいろな力を利用して動き、増やそうとしていることが分かりました。(1.風のカ-モミジ 2.動物や鳥が食べて運んでもらう-ドングリ 3.誰かにくっついて-ヌスビトハギ 4.水の力を借りて-アカバナユウゲショウ 5.自分で土に潜っていく-カラスムギ)



高柳さんは、不思議だなと思ったことを気に留めておくと、本に出会ったり、写真が目飛び込んできたりして分かって来る。何より自分で考えることが大切だと話されました。



## 第2回 11月2日(日曜) 「早野の自然に出会う 木や竹を使ってみよう」

**\*講師 早野聖地公園里山ボランティア 代表 小林昌幸 副代表 岩崎肇,川名和恵ほか皆さん**  
**\*会場 早野聖地公園**

早野で多摩丘陵の谷戸地形(里地・里山)を学び、谷戸田が墓地になっている現状を理解し、林が池を通過して谷戸田の面影が残る梅ヶ谷に入りました。道中では120年に一度と言われるハチクの花が咲いていました。マメガキ、芭蕉の花や実に出会い、ハンノキ林がある谷戸に到着。ボランティアが用意してくれた竹や木を鋸で切ってみることを全員が体験できました。炭焼き窯の前では川崎市域唯一の炭焼きのお話を聞きました。



### 第3回 11月16日(日曜)

## 「身近な植物を知ろう 何が見つかるかな? ワクワク」

\*講師 山田 晋(東京農業大学農学部教授) 協力 内海陽子、石井よし子

\*会場 柿生駅~沖の谷戸~おっ越し山~柿生の里特別緑地保全地区



「子供たちが、独自に探し出す自由な発想を大切にしながら、葉っぱ、実、花それぞれについて、〈気になった〉ものを取ってみましょう。目、手、鼻、舌、耳という五感を使って、「気になる」ものを探し出してみましょう。」と先生からのメッセージ。

季節は秋、葉っぱや実の形、落ち葉の色はさまざまです。秋の宝箱をと子どもにはケース、保護者には袋を持ってもらいました。草刈り予定を伸ばしてもらった雑草地では、思う存分採取できました。イヌタデ、コセンダングサ、カラムシなど。おっ越し山辺りではイチヨウの葉、松かさ、フジの鞘、植物のビーズといわれるジュズダマ(イネ科なので葉っぱで切れる、実には穴が通る)、杉の香り、ヘクソカズラのおいなどを体験しながら、ヒサカキの実でお絵描き遊び(青色はレモンをかけると赤色に)。先生から植物について説明を頂きながらの道中でした。柿生の里の広場で拾い集めたものを画用紙に並べてお披露目しました。それぞれの素敵なアート作品ができました。



### 第4回 12月7日(日曜日)

## 「柿生の里の収穫祭 冬の里山の準備&遊ぼうパンなど楽しもう」

\*講師 柿生の里クラブの皆さん

\*会場 おっ越し山~柿生の里散歩道~柿生の里特別緑地保全地区

入念な事前準備を経て快晴のもとみんなで力を合わせて収穫祭を行いました。秋から初冬への自然の変化を感じながら、山伏のほら貝に迎えられて柿生の里に到着。里山のこの時期ならではの大事な作業である落ち葉かきをやりました。落ち葉が微生物によって土に還る不思議の説明を聞き、土から生まれたものを土に戻した土になるという自然の循環のお手伝いです。腐葉土置場ではふかふかの落ち葉の感触を味わい夏のプールのように、落ち葉をかけあって遊びました。かまどの炭火で焼く遊ぼうパンはお代わり続出でした。修了式後には麻生区役所道路公園センター協働推進課長鈴木さん、麻生区生涯学習支援課係長松本さんからご挨拶をいただきました。



ふるさとヒナチュリスト証  
金程小 様  
あなたは、令和七年度あまの里山  
こどもクラブ全四回すべてに参加  
しましたのでここに表彰します。ご家  
族での努力も重ねられた植物です。  
これからもあま  
に、自然を遊んで  
だろーと里かな  
ことを期待してい  
令和七年十二月  
里山フォーラム  
代表  
事務



(記録協力;豊川,岡本 写真協力;職員,雛倉,宮河,山口)

# 里地里山カフェ塾 からむし講座

麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)を学ぶ講座です。毎年繊維がとりやすい6月から7月にかけて開催します。講座では縄文時代からの人と自然のかかわり-文化を紡ぎ、次世代に伝えようと試んでいます。

## からむしボランティア 研修

カラムシという植物を知って、古代から身近な植物を発見しどう利用してきたかを学び、麻生区のカラムシを使って苧引き(繊維を取り出す)や糸づくり、縄作り、編布などを行い子どもたちの学習を手助けする研修です。

■内部研修 6月29日 前日に早野のカラムシを運んで準備をし、苧引きや編布(アンギン)に励んで材料を準備しました。

■「からむしを楽しむ」7月5日 からむしを学び、新たな苧引きのやり方や編布(アンギン)を楽しく実習しました。

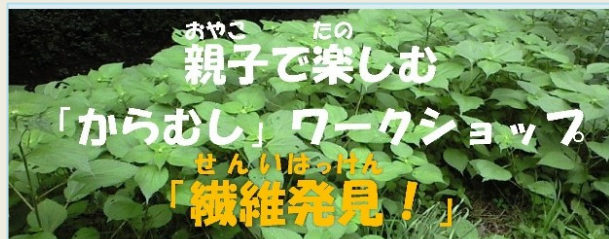
案内 中山亜希子、高波三好、石井よし子



区役所母子像の所で  
自生しているカラムシのお世話をしています。



新潟県津南町の編布、宮古諸島のブー(カラムシ)に思いを馳せながら実習を進めることができました。 ↓終了後の歓談



8月2日(土曜)

あさおしみんかん しょうりしつ  
麻生市民館 料理室  
午前9時30分~12時

そもそも植物の「繊維」って?

縄文人はどうやって見つけたのかな?

私たちもチャレンジ!

☆☆麻おけのミニ箸を作ろう☆☆

縄文時代に選べる編布の作品なども紹介

## 親子で楽しむからむしワークショップ「繊維発見！」

高柳先生からそもそも植物の繊維ってなんだろう?と学び、繊維を発見し、取出し(苧引き)しました。そしてカラムシの繊維の特徴を活かしたミニ箸を作りました。

講師 高柳芳恵 ナチュラリスト

協力 からむしボランティア



# 万福寺鮮紅大長人参 (通称：万福寺人参)

万福寺鮮紅大長人参は、現在の麻生区万福寺とその周辺地区のかつての特産品で、全国野菜品評会において昭和 29 年から5年連続で日本一になった人参です。ごぼうのように長く香りが強く甘くこくがあり、お正月に欠かせない人参でした。

この人参は畑の土づくりに励み幾多の困難を乗り越えると 80 cm-90 cm級の長さで成長しますが、努力を重ねてもなかなかそうはいかないこともまた、毎年栽培に挑戦する力になると語る栽培者の方々もいます。

今年度は、何と言っても降雨無しの酷暑続きという異常気象下での種蒔きを余儀なくされました。土壌の深いところまでカラカラ状態となり、発芽・活着という栽培初期段階のハードル越えが大変困難でした。「全滅した、蒔き直しても成長していない、とても出品には無理」というお話が続いていましたが、来年ためにも現状を語り合おうと 12 月 19 日、20 日と持ち寄ってくれました。

《第 26 回万福寺人参品評会-私の万福寺人参を語り合う会-》です。写真のように 27 組でした。長さは 27 cm~86 cm、糖度は 7.9%~16.8%と個性あふれる人参が並びました。



明治大学農学部農学科・野菜園芸学研究室 (元木悟教授) からは 14 名も参加してくれました。(生田キャンパス圃場)

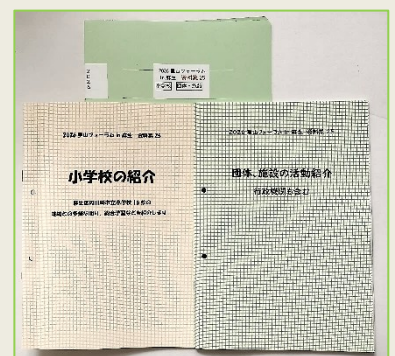
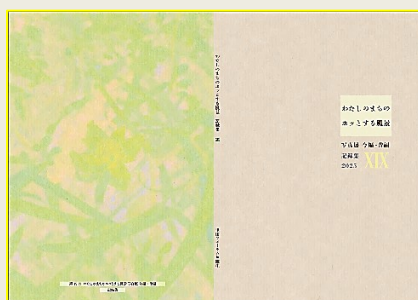
初出品の方々も健闘し見事入賞しました。審査委員 (長瀬和徳、岩本陽児、東哲也、相澤悟) の厳正な審査の元以下の賞が決まりました。最優秀賞-該当無し、姿(ルックス)賞-鈴木章夫(古沢大久保)、色彩賞-脇愛子(マッシュファーム-黒川東)、香り賞-七久保文男(岡上)、味覚賞-長沢中学校サポート級、ユニーク賞-岩田柚香(明治大学農学部農学研究科博士前期課程 1 年)、特別賞-金程小学校 2 年生、特別賞-宮下響紀(明治大学農学部農学科 3 年) ※高温少雨という異常気象のなかで栽培に努力し収穫・出品に漕ぎ付けた出品者全員に努力賞。(万福寺人参友の会共催)



市民館視聴覚室での「語り合う会」では参加者全員で話し合いました。種蒔き適期、水やり、肥料、畝づくり、虫対策、袋栽培等々、栽培の苦労や工夫を語り合い、今年度は一人一人が栽培に取り組んだという明治大学生らと活発に意見交換をしました。ティータイムでは、日本一になった当時、収穫の合間に食べていたという「いか人参」をヘルスメイトが作ってくれ、みんなで楽しむことができました。

実習室での品評会場に戻り、表彰式を終え、東区長さんが感想を述べ、みのわとしゆき作詞、よだひでき作曲の「万福寺人参の歌」…つくろう、うまいぞ、元気に、福がくる…と声を合わせ歌いました。

## 2 月 3 月は展示で賑わい、冊子も出来ました！



# 第20回 わたしのまちのホッとする風景写真展（今編、昔編）

フォーラムと同時開催の写真展です。寄せられた132点の作品からは、足もとの自然に誘われ、まちを歩いて出会った風景に感動しながらシャッターを押す心の動きが共に映し出されていました。昔編ではまちの移り変わりや今に継承されているものが分かる貴重な写真をご提供いただきました。展示は令和7年2月10日(月)～令和8年3月12日(木)まで麻生市民館ウォールギャラリーで行い、鑑賞する方々の会話が弾んでいました。全作品はまちの記憶として残して行こうと『写真記録集20』に収められる予定です。

《受賞作品の紹介》（本写真展はコンテストではありませんが賞を設けています。）



麻生市民館長賞 鈴木秀雄  
「万福寺の森と小田急」今・昔6枚から  
1973(昭和48)年新百合ヶ丘駅新設工事中



麻生区長賞 安藤敬  
「代かき」古沢



ホッと賞 真下智彦  
「花曇り」岡上営農団地



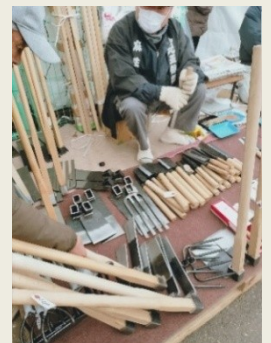
特別賞 宮野敏男  
「川井田谷戸の田んぼ」  
1963(昭和38)年6月



ホッと賞 石川清



和田善光



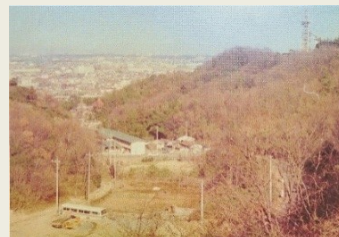
石井信

「春爛漫」香林寺 「里山の晩秋」柿生緑地 「農鍛冶」だるま市



①梅原富士子

里山フォーラム賞  
「金程のどんど焼き」  
一部紹介  
①1980(昭和55)年頃  
②やぐらの制作過程  
③金程小でのどんど焼き



特別賞 市嶋新 「よみうりランド周辺の今・昔」



②平井祥代



③高橋美彩



ホッと賞 中田百穂  
「長寿の虹大橋」



特別賞 大倉正直  
「皆で見守る最後のどんど焼き」

主催 里山フォーラム in 麻生/麻生区生涯学習支援課(麻生市民館)

里山フォーラム E-mail satoyamaforum@gmail.com TEL 070-6426-6123

麻生市民館 TEL 044-951-1300

令和7年度 麻生区地域課題対応事業-麻生里地里山保全推進事業

だより編集, 文責-石井よし子  
写真-雛倉正人, 山口幸紀,  
職員, 石井よし子